

平成30年度 年間行事カレンダー

企画展

市民講座

新収蔵品展—平成27～29年度受入資料—
4/25(水)～5/27(日)

終了

5/13(日) クモの話
講師：千木良 芳範(宜野湾市立博物館館長)

終了

【慰霊の日写真パネル展】

終了

沖縄戦の中の宜野湾
6/13(水)～7/2(月)

6/10(日) 森川公園の自然(野外)
講師：千木良 芳範(宜野湾市立博物館館長)

終了

6/17(日) 語やびら、イガルーシマ
講師：玉那覇 祐正(宇宜野湾郷友会)

終了

【夏の企画展】

7/29(日) 沖縄の昆虫と人との関わり
講師：佐々木 健志(琉球大学資料館「風樹館」学芸員)



「大」昆虫展
—小さな虫の大きな世界—
7/18(水)～9/30(日)

8/12(日) 石は語る
講師：大城 逸朗(おきなわ石の会会長)

9/23(日) ウシオーラセーは面白い
～闘牛と沖縄の人々～
講師：宮城 邦治(沖縄国際大学名誉教授)

9/16(日) 西普天間の文化財(野外)
講師：伊藤 圭(宜野湾市立博物館主任主事)

【小・中学校連携展】
第27回 ぎのわんの文化財図画作品展
10/6(土)～10/21(日)

10/14(日) グスク時代の農業と琉球石灰岩台地の宜野湾
講師：安里 進(前沖縄県立博物館・美術館館長)

10/28(日) 疎開先を訪ねて～中部編～(野外)
講師：仲村 元惟(宜野湾市史編集委員会委員)

【ぎのわん教育の日関連企画展】

宜野湾探訪Ⅱ—宜野湾とグスク—
10/31(水)～12/2(日)

11/4(日) グスクの話
講師：上原 静(沖縄国際大学教授)

11/11(日) グスクツアー(野外)
講師：上原 静(沖縄国際大学教授)

12/2(日) 軽便鉄道の旅(野外)
講師：波平 エリ子(沖縄女子短期大学准教授)

12/9(日) 冬だけど…カエルのお話をしよう
講師：千木良 芳範(宜野湾市立博物館館長)

12/23(日) 戦後の街、普天間をめぐる(野外)
講師：平敷 兼哉(宜野湾市立博物館学芸係長)

【企画展】

石川竜一写真展(仮)
12/12(水)～1/13(日)

1/13(日) 御願の道具と供えもの
講師：稲福 政斉(宜野湾市立博物館嘱託員)

【地域との連携企画展】

ぎのわんの字(あざ)展～宇地泊編～
1/23(水)～3/3(日)

2/3(日) めぐてい！イガルーシマ～宇地泊編～(野外)
講師：平敷 兼哉(宜野湾市立博物館学芸係長)

2/17(日) 宜野湾あれこれ！
講師：新垣 義夫(普天満宮宮司)

宜野湾市立博物館 〒901-2224 宜野湾市真志喜1-25-1
TEL: 870-9317 FAX: 870-9316

- 入館料：無料
- 開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日：毎週火曜日、祝祭日、年末年始(文化の日、慰霊の日は開館)
※火曜日と祝祭日が重なる場合は、翌日の水曜日にも休館になります。



はくぶつかんネット No.62

平成30年度 4～6月号 発行：宜野湾市立博物館

慰霊の日写真パネル展 沖縄戦の中の宜野湾



6月13日(水)から7月2日(月)まで、博物館企画展示室にて、慰霊の日写真パネル展「沖縄戦の中の宜野湾」が開催されました。このパネル展は、戦後73年が過ぎて戦後世代が大半を占めて、戦争体験者の減少とともに、戦争の記憶の風化が進んでいるなか、戦争と平和について考え、次の世代へと継承を目的に毎年、慰霊の日の時期に行われている企画展です。

今回のパネル展では、戦争前の宜野湾村(現市)ののどかな地域が沖縄戦でどう変わってしまったのか、そして今も残る戦争遺跡、戦没者を祀った慰霊塔・碑などの写真パネルを中心に、戦争体験者の証言集や沖縄県平和祈念資料館提供の映像資料など、207点を紹介しました。開催中、市内外、県外を含め1,800名余の方々に見学いただきました。ご来館くださいました皆さま、誠にありがとうございました。多くの方々にご覧になることで、戦争と平和について考えるきっかけとなれば幸いです。

戦争と平和について考えてみよう



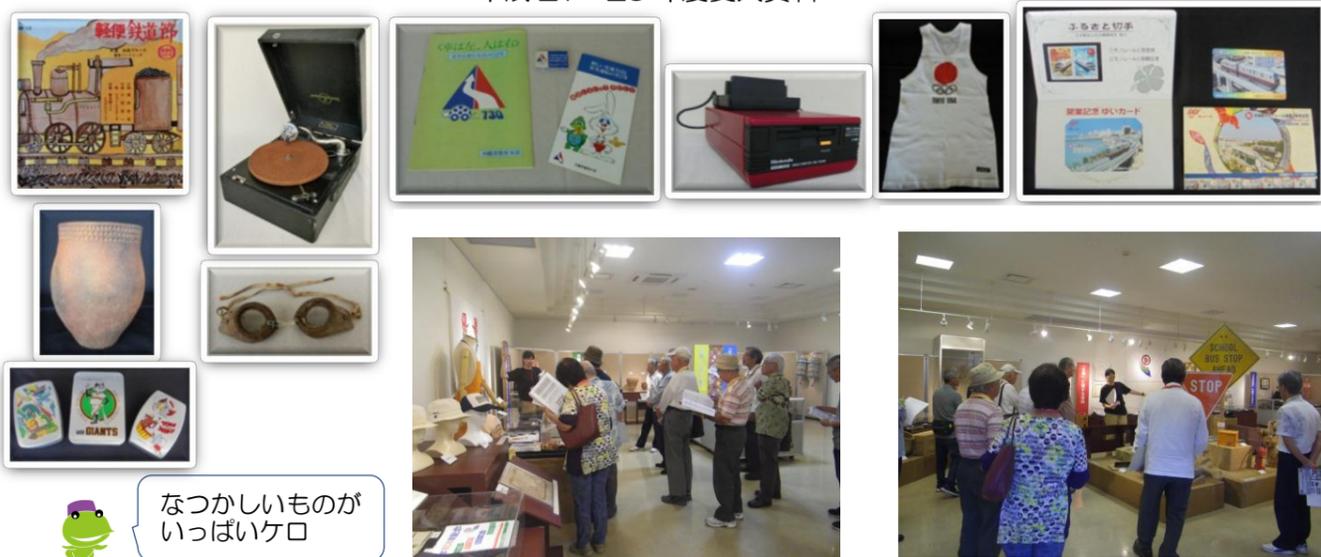
団体見学の様子

新収蔵品展

— 平成 27~29 年度受入資料 —



ご来館ありがとうございました。



なつかしいものが
いっぱいケロ

「新収蔵品 —平成 27~29 年度受入資料—」(4月 25 日~5月 27 日)では、博物館が平成 27~29 年度にかけて、市民の方々から寄贈・寄託していただいた資料や、博物館が収集・作製した資料(1,613 点)の中から、345 点の資料を紹介しました。

資料を寄贈・寄託していただいた皆さまに感謝申し上げます。これらの資料は、展示会終了後、収蔵庫に保管され、今後、様々な場で活用させていただきます。

◇博物館の役割

寄贈・寄託ありがとうございました

■収集

当館で展示されている資料は、何らかの方法で収集してきたものです。主な収集方法は、所有者から譲っていただく「寄贈(きそう)」、所有者から預けていただく「寄託(きたく)」です。

当館では

- ①宜野湾市で暮らした人々が使っていた
 - ②当館に所蔵されていない、もしくは数が少ない
 - ③当館が所蔵している資料より状態が良い(壊れていない)
- といったことを基準として収集しています。

■保管

収集された資料は、大きさや状態を職員によって確認され、収蔵品台帳に記録されます。さらに、資料に付いたシロアリなどの害虫やカビを除くために、「燻蒸(くんじょう)」という処理を行います。この「燻蒸」によって虫や菌を取り除いた資料は、収蔵庫へ移され、保管されます。

■利用

資料の利用方法で最も多いのは、当館の常設展や企画展などの展示です。また当館に限らず、依頼があれば他館へ貸し出し、展示されることもあります。

展示以外にも、意外な利用方法があります。それは「道具の体験学習」です。たとえば小学校の社会科見学で「昔のくらし」を学ぶときに、状態が良く、実際に動く資料を収蔵庫から出して、子どもたちに体験してもらったりしています。



寄贈・寄託の他にも、たくさんの方により分かりやすく知ってもらうために、実際に見たり・触れたりできる資料の作製も行っています。

★作製した資料は、主に展示会や社会科見学、出前授業などで活用しています!

~寄贈・寄託のお願い~

当館での寄贈・寄託は、多くの場合が「こんな道具があるけど、博物館で必要ですか?」といったご連絡をいただくことがきっかけです。お家に古い道具がありましたら、当館までぜひご一報ください。

平成 30 年度 博物館職員紹介



平成 30 年度のスタートにあたって

季節はうりずんを越え、気分は夏模様。博物館も例年どおり、静かな新年度を過ごしております。今年度の博物館のスタートは、窓口業務の担当がいなくなったことが昨年との大きな違いです。そのため、各種証明書をおとりになる方は、少し勝手が違っているかもしれませんが、ご容赦願います。

千木良 芳範 館長 さて、博物館で仕事をしていると、よく聞かれる質問があります。「博物館で仕事をするときに一番大切なものは何ですか?」というものです。多くの方が期待する答えは「専門的な知識」というところかもしれませんが、それ

も大切ですが、私はいつも「パッション(情熱)です。」と答えています。展示会や講演会に対する担当者の情熱がなければ、訪れる人たちの心に響く催し物にはならないと考えるからです。

博物館は、今年度もパワフルに活動していきたいと考えています。昨年に劣らず、企画展を充実させ、盛りだくさんの市民講座や体験講座を準備いたしました。それぞれの事業には、担当職員の様々なパッションがのっかっています。という訳で、今年度はどれくらいのパッションが市民の皆さまの元へ届くでしょうか。

新職員紹介

★ 伊藤 圭 ★

今年度から博物館で業務を行うことになりました伊藤と申します。前年度までは、主に埋蔵文化財の調査を担当していました。博物館では、前任である仲村の業務を一部引き継ぎ、施設管理や市民講座、歴史公文書の整理・活用などを担当します。これまでの職場と仕事内容が一変して慣れるまでに時間がかかりそうですが、新たな気持ちで業務を楽しみたいと思いますので、よろしくお願い致します。

★ 稲福 政斉 ★

今年 4 月から嘱託員として、普天間飛行場周辺まちづくり事業の一環である沖縄平和祈念像原型(山田真山作)関連の業務などに携わっております。勤めはじめてまだ間もないため、業務の内容はもとより、館内のどこに何(施設、設備、収蔵資料などなど)があるのかなど、新たに覚えるべきことの多い日々を過ごすなか、祈念像の尊顔を拝するたび平和な心持ちを取りもどし、あらためて山田画伯畢生の作の力を感じております。

- 千木良 芳範 (館長)
- 平敷 兼哉 (学芸係長)
- 伊藤 圭 (主任主事)
- 我如古 香 (学芸担当嘱託職員)
- 田中 樹 (学芸担当嘱託職員)
- 稲福 政斉 (学芸担当嘱託職員)
- 神谷 遥 (市史編集担当嘱託職員)
- 比嘉 三紀子 (市史編集担当嘱託職員)

今年度も
よろしく
願います



市史編集事業

市史第8巻 戦後資料編Ⅱ「伊佐浜の土地闘争」

大変長らくお待たせしております。伊佐浜の土地闘争編、いよいよ来年3月に発刊いたします。

今回の本文構成は、第1部から第3部に分かれており、また関連資料・新聞などをより見やすくするため、これらをCDディスクに収めました。第1部では戦後宜野湾の基地建設から始まり、土地を奪われ、立退き・移住移民への一連の流れを全5章にて解説。また第2部では当時土地を接収被害にあった住民や接収を阻止しようと支援に集った方々の証言を収録。第3部では、琉球政府時代の行政文書を用いて、政府の対応について知ることが出来ます。約10年ぶりの市史発刊にあたり、従来の仕様から小工夫を加え、一人でも多くの方に読んでいただけるよう編集を進めております。発刊までしばらくお待ちください。



▲写真集『ぎのわん』より

歴史公文書等整理・活用事業

今年は、歴史公文書検討委員会の委員のご協力を受け、公開するための基準作りや、手続きの整備を進めていきます。年度末には宜野湾市のホームページを通じて歴史公文書を市民の皆さまに活用していただける様にしたいと考えています。



平成30年度内に公開します!!



沖縄県地域史協議会 総会及び第1回研修会 IN 糸満市



総会 代表挨拶の様子

5月25日(金)、糸満市農民環境改善センターにおいて、沖縄県地域史協議会の総会及び第1回研修会が行われました。

地域史協議会とは、各市町村の地域史編集関係者が集まり、情報・資料を共有し、地域史づくりの発展を目指す活動を行う会で、37機関が加盟しています。

当日午前中は、糸満市内の文化財巡りを行い「南山グスク」「海人工房」などを回りました。午後は、総会と研修会が行われました。研修会では、琉球史を研究している上里隆史さんによる南山グスクに関する講演があり、また昨年度に市史(報告書)発刊した市町村史の担当者(竹富町、北中城村、南城市)による報告が3点ありました。こういった作業工程で出来上がったのか、また独自の工夫点などの報告を聞き、私たち宜野湾市も今後の市史発刊に活かせるようにしていきます。



南山グスク城跡内(按司御臺)

沖縄県博物館協会

総会と春の研修会に行ってきました!

5月10日(木)に沖縄県立博物館・美術館で、「沖縄県博物館協会」の平成30年度総会が行われました。これは、博物館事業の振興と地域文化の向上発展を目的として組織された集まりで、現在70の団体(博物館等)と個人会員が在籍しています。

「沖縄県博物館協会」は略して「沖博協」と呼ばれています。沖博協は、団体会員が2年毎に持ち回りで事務局を行っていますが、この総会までは、浦添市美術館に事務局がありました。そして、この大変な事務局の仕事を浦添美術館から引き継いで、今年度から2年間事務局を行うのは・・・宜野湾市立博物館です。浦添市美術館の方々、2年間お疲れさまでした。

さて、13時半から始まった総会は、30分ほどで無事に終了し、14時過ぎからは博物館業務に貢献した方々の表彰が行われました。この顕彰者表彰が、宜野湾市立博物館の沖博協事務局としての初めての仕事になりました。

今回の顕彰者は、沖縄県立博物館・美術館の園原謙氏と、当博物館が推薦した普天間宮宮司の新垣義夫氏のお二人です。中でも新垣氏は、当館の博物館協議会の委員を19年に亘って努めて頂くなど、博物館事業の推進に大変尽力されました。ありがとうございました! なお、お二人への表彰は、沖博協の新任会長に就任した千木良館長より行われました。

閉会後は、琉球大学教授の池田榮史先生による講演会「戦争遺跡の保存と活用」が行われました。これまで池田先生が尽力されてこられた、南風原陸軍病院壕の保存・活用を例に、戦争遺跡を保存・活用していく上で問題や課題について分かり易くご説明して頂きました。

翌11日(金)は、南風原町で研修が行われ、「南風原町の戦跡コース」を巡見しました。ガイドの方や町職員の方に陸軍病院壕に関する文化財を案内して頂き、戦跡を保存・活用することの難しさや大切さを改めて感じました。



▲総会の様子



▲新垣義夫氏(普天満宮宮司)の表彰



▲新垣義夫氏と職員で記念撮影

*左は、浦添市美術館館長の宮里正子前会長



▲ガイドによる南風原の戦跡コース巡見の様子

市史だより がちまやあ Gači-majaa



世の中が便利になりスマホの普及で世界のどこにいても家族や友人の声を聴くことができ、身近に感じることができるようになりました。電話が発明されたのは約 142 年前ですが、宜野湾市(村)に電話が普及し始めたのは約 57 年前だにご存知でしょうか? 今回の「がちまやあ」は、電話の誕生から宜野湾市(村)の電話普及について一部紹介します。

『電話の誕生』

1876 年アメリカでグラム・ベルが電話を発明し特許を取りました。

同時期に電話の発明を成功させた人に エリシャ・グレイとエジソン・トーマスがいるよ

1878 年国産電話機を制作

2 台しか作成されなかったんだよ (ベル式電話 1 号機)

1887 年イギリスからワーベル電話機を輸入 (磁石式)

1890 (明治 23) 年、日本も電話業務スタート

1899 (明治 32) 年我が国長距離通話が始まる

1926 (大正 15・昭和元) 年日本初の自動交換方式 (ダイヤル式)

1970 年代 日本を代表する黒電話登場

1963 (昭和 38) 年、日本電信電話公社によって製品化され、提供が開始されました。



宜野湾村に電話が登場するのは、この時期です。

色は当初黒のみでしたが、1971 (昭和 46) 年から「グリーン」「ウォームグレー」「アイボリー」が追加されました。

1980 年代後半～1990 年代親子電話・コードレス電話の登場



家の中で 1 階と 2 階で通話できたし、2 階にいても外からの通話が取れて便利だったんだよ



1985 (昭和 60) 年 N T T が初のポータブル電話機『ショルダーフォン』発売

1987 (昭和 62) 年 N T T からショルダーフォンより小型化した携帯電話発売

1990 年後半～2000 年代はフィーチャーフォン時代

2010 年中盤以降 PC に近いスマートフォン時代

AI 機能がついているスマホも登場しているよ

ダイヤル式の電話だと、電話予約のコンサートチケットを取るのが大変だったんだ。ダイヤルだと遅くて繋がりにくいから、プッシュ式の公衆電話を探してチケットを取ったなあ・・・



宜野湾村に電話登場



宜野湾市史 5 巻に詳しく載ってるよ



戦前、電話の交換業務は郵便の集配と共に郵便局で行われていました。沖縄県では那覇郵便局で 1910 (明治 43) 年 2 月電話業務が開始され、宜野湾村では 1930 (昭和 5) 年 1 月 6 日から宇宜野湾にあった宜野湾郵便局で電話業務が開始されました。

当時は、電話や郵便はまだ一般の人々が利用するというより、政府が公文書を伝達するために使われることが多かったんだ

各区に電話登

宜野湾市(村)の歴史公文書に記録が残っているわ



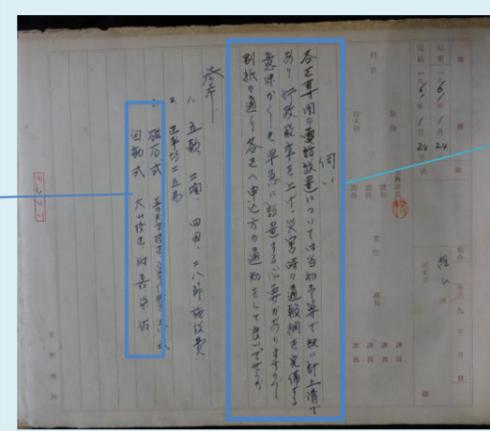
『雑書 総務⑩』

電話の設置はまず、郵便局から始まり、ついで宜野湾村役場に設置され、その後区や一般に普及していったんだ。



1961 (昭和 36) 年宜野湾村でも、区専用の電話の設置がうながされました。

磁石式
普天間校区・宜野湾校区
志・我
自動式
大山校区・謝・嘉・栄・佐



各区専用の電話設置については当初予算で既に計上済であり、行政能力を上げ、災害時の通報網を完備する意味からも早急に設置する必要がありまますので、別紙の通り各区へ申込方の通知をして良いでせうか。

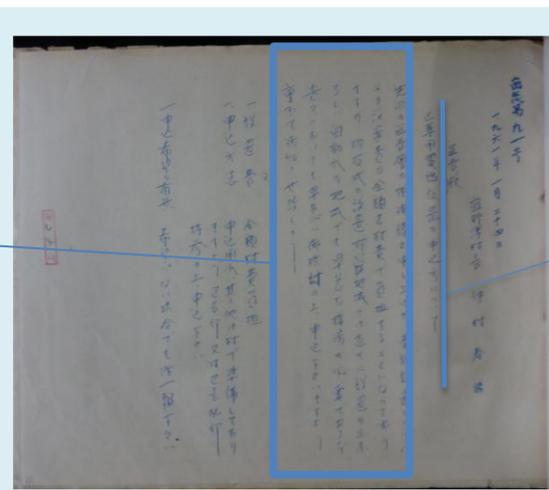
設置する電話の種類と設置申請対象の区が記載されているケロ

『雑書 総務⑩』1961 年

電話の設置の必要性が書かれているよ



先般の区長会の際御傳え申し上げた、電話設置については、その設置費の全額を村費で負担することになっておりますが、磁石式の設置可能な地域では直ちに設置が出来るし、自動式の地域でも早急に設置が必要であるので貴区においても早急に御検討の上、申込下さいませよう重ねて御知らせ致します。



区専用電話設置の申込方について

電話設置費は全額村負担じゃよ



『雑書 総務⑩』1961 年

現代の私達には、電話で人と連絡が取れない環境は全く想像もつきません。電話は今や一家に一台ではなく、一人に一台の時代になりましたが、大切な人の声が聞けることを大切にしていきたいですね。

